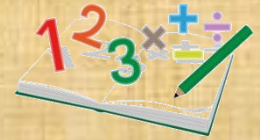




# 算数・数学部報



## 夏休み各研修会の報告

### ☆授業力・教師力アップセミナー

7月29日(月)基礎編が岡崎市民会館で行われました。「主体的・対話的で深い学びについての具体的な実践」について、愛知教育大学附属岡崎中学校の神谷尚希先生に、『アイデア集』、『基礎学力調査』の利用の仕方について、岩津小学校の濱田明弘先生と矢作北小学校の松金正樹先生にお話ししていただきました。

神谷先生には、これからの社会に通用する子供たちを育てるために、主体的・対話的で深い学びを実現するためのポイントが詰まった魅力的な授業実践を紹介していただきました。「噴水の水を狙った高さに上げるにはどうしたらよいか」、「立体に合同な図形を敷きつめるにはどうすればよいのか」を考える中で、生徒が類推的な考え方や統合・発展的に考察する力を働かせ、学びを深める姿は、これからの私たちが目指す児童生徒像だと実感しました。濱田先生と松金先生には、算数・数学部の研究の成果物の活用の仕方について、話し合いを交えたり、具体物を用いたりして教えていただきました。とても充実したセミナーとなりました。

また、8月2日(金)6日(火)には、応用編が総合学習センターにて、額田中学校校長の北村文啓先生、竜美丘小学校教頭の佐橋康仁先生を講師に招いて内容ある会が行われました。



#### 【基礎編参加者の感想】

前半は、新学習指導要領全面実施に向けて、主体的・対話的で深い学びを実現するためのポイントを実際の授業をもとにお話ししていただきました。子供たちの学習が深まり、それぞれの考えが関わっていった様子の授業を見て、課題を見つめ、深め、つなげていくことが大切であることが分かりました。後半は、「基礎学力調査」や「アイデア集」の活用の仕方についてお話を聞き、これらのものを積極的に使って日々の指導をしていきたいと感じました。 <文責：中村 緑(井田小)>

#### 【応用編参加者の感想】

中学校数学科教育では、新学習指導要領の実施に向けて、数学科の内容の構成や各学年・全体の目標がどのように改訂されているのかという話をしていただきました。また、新設された「Dデータの活用」の領域での四分位範囲や箱ひげ図について、問題に取り組みながら指導法を学ぶことができました。データの整理で終わるのでなく、目的をもって分布や傾向を読み取り、批判的に考察し、判断する力をつけていけるような授業づくりが大切であると感じました。 <文責：柘内 美希(南中)>

### ☆三河教育研究会算数数学部会夏季研修会 豊橋大会

8月6日(火)三河教育研究会算数数学部会夏季研修会が「主体的、協働的に学ぶ算数・数学教育の実践」という大会主題のもと、豊橋市のライフポートとよはしで行われました。岡崎市からは、司会者として井田小学校の畔柳英徳先生が、提案者として葵中学校の岩野慎也先生が参加されました。

午前中は、分科会が行われ、岩野先生より「数学的活動を通して、主体的に自分の思いや考えを表現できる生徒の育成を目指して」というテーマで発表されました。イメージのしづらい中学校3年生の「平方根」の単元で、生徒たちが、ICT機器を利用して大型スクリーンに映して発表させたり、ホワイトボードに考えを書いて、意見交換したりと、図や表を実際に見ることで視覚的に規則性を見つける生徒の姿を引き出すことができました。また、ペアやグループでの意見交流を積極的に取り入れることで、生徒が自分たちで積極的に問題解決をできるようにもしていました。

午後は、「数学的に考える資質・能力を育成する授業のために — 「数学的な見方・考え方」の見方・考え方—」をテーマに筑波大学教授の清水美憲先生が講演をされました。これからの予見困難な社会の中で、知識をもっているだけでなく、その知識を活用できるようにならなければいけないと言われていました。そのために算数・数学科の授業では、「自己評価をすること」「言語化をすること」「ノートや板書の指導を充実させること」の3点が大切であると実感しました。



#### 【参加者の感想】

私は、豊橋市の先生の「教具を活かして考えを伝え合い、表現力を高める生徒の育成」の発表を聞きました。教具を工夫することで、生徒の考えを表現することを助け、ペアやグループの交流が充実すると実感しました。生徒の興味を引き付けるような教具を考えていきたいです。 <文責：柴田貴巳(矢作中)>

## ☆全国算数・数学教育研究(沖縄)大会

- ・日 時 8月7日(水)～9日(金)
- ・場 所 沖縄コンベンションセンター 他
- ・提案者 西尾修一先生(北中), 岩野慎也先生(葵中), 岩月聖将先生(六ツ美南部小)  
河上翔太先生(美川中)

### 【参加者の感想】

この大会を通して、岡崎市の実践の質の高さを再確認することができました。また、自分と同じ「数学的な見方・考え方」に焦点を当てた研究が数多く発表され、より一層「数学的な見方・考え方」に対する理解が深まったように思います。指導助言からは、「①結果のみを重視するのではなく、その過程を大切にし、どのような方法で(どのような見方・考え方を働かせて)解決したのかを明確にすること、②分かったことがどのような場面で使えるのか(または使えないのか)を、子供が見つめる授業を展開する必要があること、③何が分かれば解けるのか、どうすれば解けるのかを考えさせる授業を展開する必要があること」などを学ぶことができました。 <文責:河上翔太(美川中)>

今回、提案する機会を得たことで、多くの先生からアドバイスをいただきました。「場合の数」の単元において、サーティーワンアイスクリームを題材にした研究を発表し、子どもの興味を引く題材の大切さ、そして子供たちから課題を引き出させることの大切さを学びました。日数教で学んだことを生かし、さらに教材研究に力を入れていきたいと感じました。 <文責:岩野慎也(葵中)>

## ☆アイデア集の授業の紹介(小学4年10月)

アイデア:陣取りゲーム

単 元:面積 (アイデア集 第31集 P38,39)

準備物:新聞紙(囲みやすい記事を用意しておく), カラーペン, セロハンテープ, はさみ

### 発問 「囲んだ記事の大きさを比べよう」

10月下旬に「面積」の単元で、面積の概念について理解し、面積の普遍単位や公式を知り、面積を求める学習をします。その導入として、新聞紙を使った「陣取りゲーム」をします。2～4人でグループを作り、新聞紙の記事をじゃんけんに勝った順に端から自分が決めた場所に接するように囲んでいきます。囲んだ記事の面積が一番大きいか競いながら考えていきます。すべての記事を囲むことができたなら、自分の取った陣をはさみで切り取ったり、テープでくっつけたりして陣の大きさを比べます。最初は2人、その後は3人、4人と増やしていくと、陣の大きさを見ただけで判断することが難しくなり、どの部分を切って貼ると比べることができるのか、自分たちなりに考えるようになります。



ゲーム形式の導入にすることにより、子供たちは楽しみながら学習に入ることができると思います。 <文責:米澤和志(愛宕小)>

## 岡崎市教育研究大会

今年度、若手の先生を中心に、算数で37本、中学校で22本のレポートが提出されました。算数、数学ともに、昨年度よりも多くのレポートが提出されました。来年度も、より充実した協議のできる研究大会になることを期待しています。

祝! 県教研 正会員 算数 大原洋平先生(根石小), 三浦優子先生(連尺小)  
数学 山田真希先生(六ツ美中), 加藤早映先生(額田中)  
能力・発達・学習と評価 江藤友美先生(小豆坂小)

岡崎市の代表として、ご活躍を期待しています!!

## 研究会案内(算数・数学に関わる研究会)

今年度、算数・数学に関わる研究会が2学期に行われます。日程は下記の通りです。なお、詳細は、各学校から送付される案内をご覧ください。ぜひ参加していただき、学びを深めましょう。

- ・11月 1日(金) 宮崎小学校
- ・11月 6日(水) 岩津小学校
- ・11月13日(水) 竜南中学校
- ・11月20日(水) 竜海中学校

